

産山村の教育

◇夢と活力、優しさにあふれた産山村の創造◇

第2期

# 産山村教育大綱

令和3年度～令和6年度



令和3年5月

産山村

## 目 次

1	策定の趣旨	.....	2
2	計画の期間	.....	2
3	施策の進行管理	.....	2
4	産山村教育推進の土台	.....	3
	◇ 就学前教育・学校教育の推進		
	◇ 生涯学習の推進		
	◇ 教育行政の推進		
5	産山村「夢創造」教育指導方針	.....	7
6	評価指標	.....	9
	～うぶやま未来計 画第2部 総合 KPI（重要業績評価指標）より～		

# ◇夢と活力、優しさにあふれた産山村の創造◇

## 産山村教育大綱

### 1 策定の趣旨

産山村は少子高齢化が進むなか、「出産・子育て・教育支援」「若い世代の呼び込み」といった施策に取り組み、移住・定住を促進してきました。とりわけ、保小中一貫教育を核とした産山村の教育改革は、移住・定住の促進という意味合いでも大きな鍵を握っているものと考えられます。

産山村の教育改革の理念は、「産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造～0歳から生涯にわたる魅力ある教育を目指して～」です。

グローバル化の進展や急速な技術革新など変化の激しい社会に対応できる能力を身につけるとともに、どのような予測困難なことがあっても主体的に学び、判断し、行動し、未来を切り拓いていく「生きる力」が必要とされます。

さらに、SDGsの理念に沿った「誰一人取り残されない、持続可能な社会」の実現に向けた視点からの学びもより一層重要視されています。教育がすべてのSDGsの基礎であり、持続可能な社会の担い手づくりとして重要な意味を持っています。



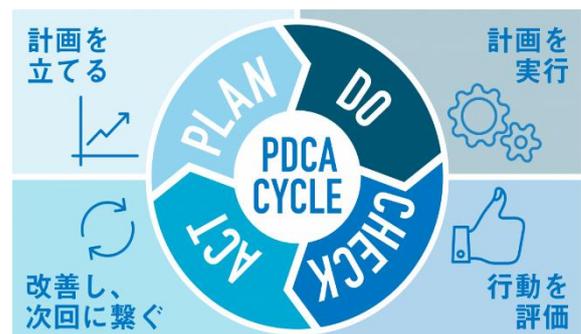
そこで、県の教育大綱、第3期「夢への架け橋」教育プラン、うぶやま未来計画を踏まえ、改めて、「産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造」という理念を掲げ、地域や園・学校等の創造性・独自性を生かした産山村の教育の在り方を、第2期「産山村教育大綱」として策定しました。

### 2 計画の期間

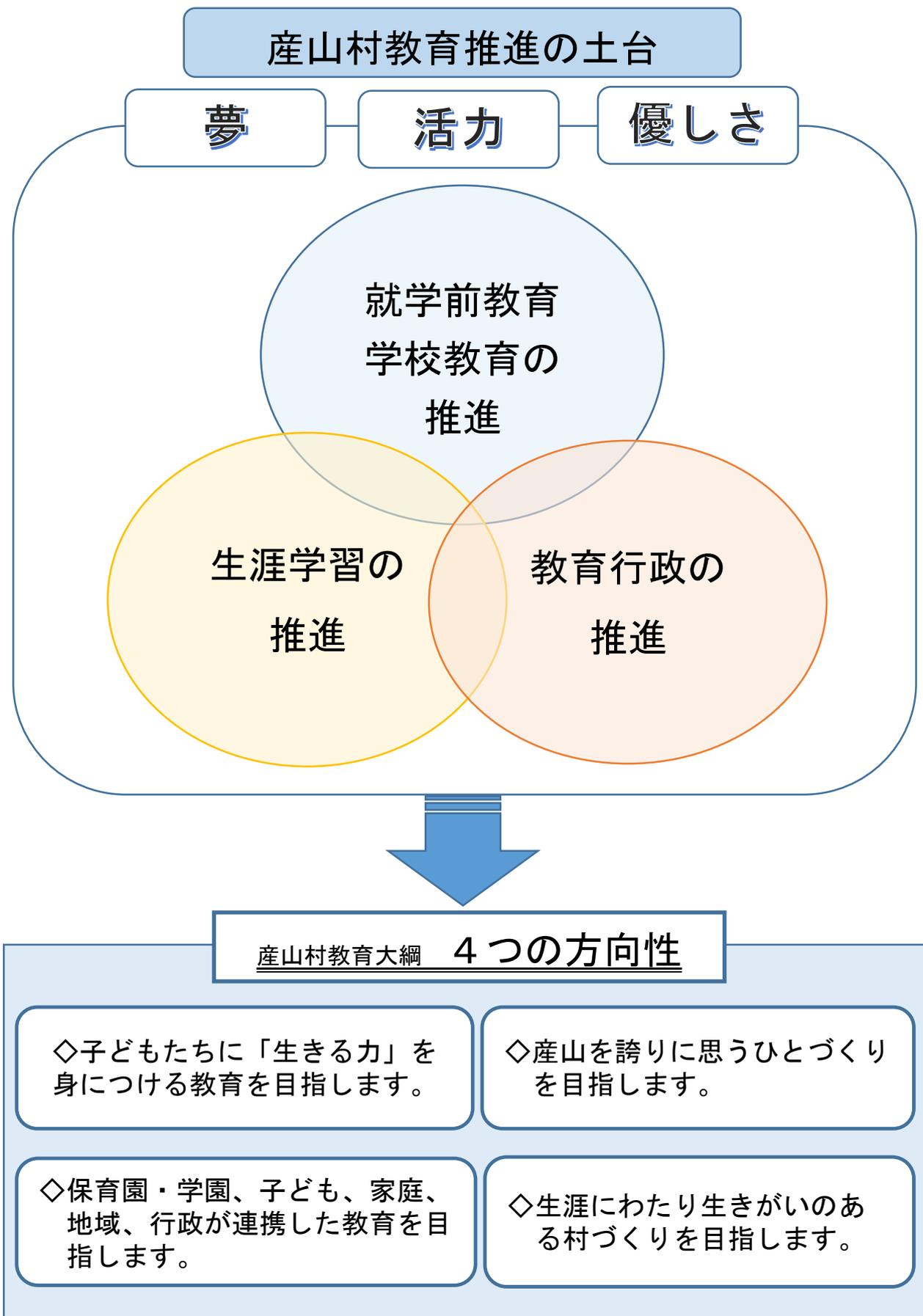
令和3年度（2021年度）から令和6年度（2024年度）とします。ただし、期間内であっても社会情勢の変化等により必要に応じて見直しを行うこととします。

### 3 施策の進行管理

教育大綱に基づく施策、各事業の実効性を担保するため、PDCAによる進行管理を行い、常に改善を行いながら事業を進めます。



#### 4 産山村教育推進の土台

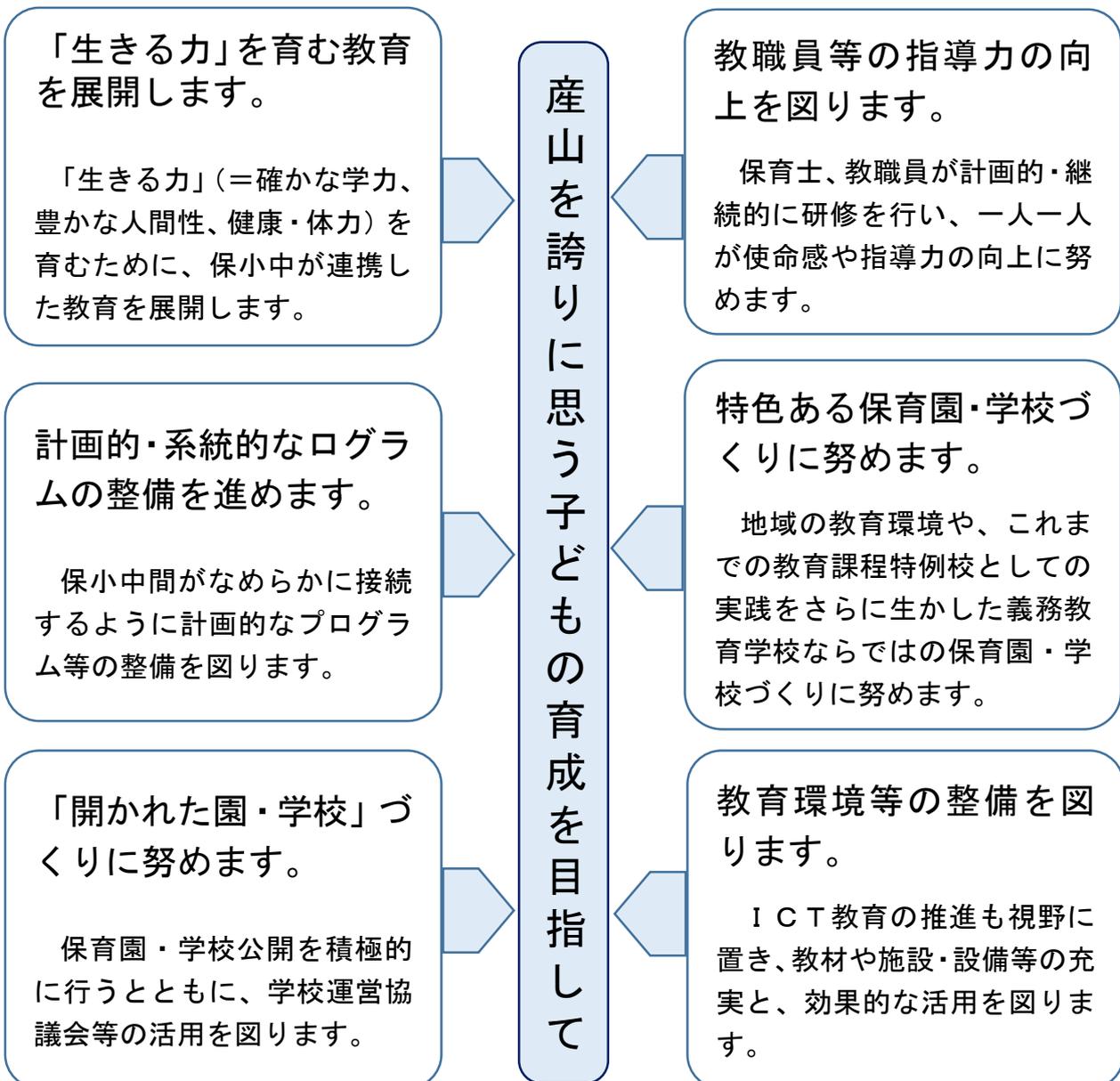


## ■ 就学前教育・学校教育の推進 ■

本村では、平成19年度から小中一貫教育を始め、平成25年7月から保育園運営・事務を教育委員会に移管して保小中一貫教育に取り組んでいます。

これは、就学前教育と学校教育のなめらかな接続による小1プロブレム、中1ギャップの解消と、義務教育を修了するまでの15年間を見通した教育により「生きる力」の定着をねらいとしたものです。

そこで、保育園・学園、子ども、家庭、地域、行政がそれぞれに連携して、産山を誇りに思う子どもの育成を目指します。



## ■ 生涯学習の推進 ■

多様化・高度化した人々の学習意欲・学習需要の高まりを背景に、生涯学習社会の実現が強く求められ、その重要性はますます高まってきました。

そこで、村民の「生きがいのある村」づくりに一人一人の生涯にわたる学習活動を推進するために、社会教育、文化、スポーツ等を中心にした生涯学習の充実を目指します。



生涯学習による人づくり  
村づくりを目指します。

生涯学習講座等での「学び」を通して、いきがいを持った人づくり、優しい村づくりを目指すとともに、村民が持つ知恵を生かして地域参加できるように努めます。

地域活動の拠点となる公民館活動を推進します。

子どもから高齢者までの世代間交流を通して、地域のコミュニティとしての公民館活動を推進します。

伝統文化の保存・継承と国際理解に努めます。

村に残る文化財等の保存・継承に努めます。  
また、国際化に対応した教育を推進します。

生きがいのある村づくりを目指して

施設の有効活用と、学習  
機会の充実・提供に努め  
ます。

村民が多様な学習活動ができるように、各施設等の有効活用や学習機会の充実・提供に努めます。

生涯スポーツの推進に  
努めます。

村民のだけれどもが、年代や体力にあわせた健康づくりや体力づくり等ができるように、生涯スポーツの推進に努めます。

豊かな人権文化を築き  
ます。

学校教育、社会教育を中心にして、人権問題について正しい理解と実践力を身につけ、差別や偏見のない村づくりを目指します。

## ■ 教育行政の推進 ■

本村の教育を推進するためには、教育行政が責任と主体性を持ち、教育の「不易と流行」を見極めつつ、時代のニーズに対応した教育と、村民の負託に応える教育を創造していく必要があります。

また、ローカルオプティマム（地域ごとの最適な状態）の考えに立ち、村民と行政が一つになって、産山村の教育を行うという強い意識と気概を持つことが大事です。

そこで、教育行政として、産山の特性を生かした教育の在り方を求め、実現可能なところから改革・改善を目指します。



### 子どもたちの夢の実現に向けて

将来を担う子どもたちの夢の実現に向けて、保育園・学校教育、家庭教育、社会教育の充実を図り、子どもの生活や学習意欲等の向上を図ります。

あわせて、子育てのより良い環境づくりを目指して、子ども・子育て支援事業を推進していきます。

### 指導体制や指導計画の充実に向けて

生涯学習の視点に立った学校教育、社会教育等を推進するために、指導体制や指導計画の改善等を図ります。

## 「産山の教育」の在り方を目指して

### 開かれた教育行政に向けて

各種集会や意見交換会、学校運営協議会等での村民の教育に対する思いや要望等を教育行政に生かしていきます。

### 教職員の指導力の向上に向けて

産山村教育研究会を中心にして、保育士、教職員等の指導力向上と、15年間の学びをつなぐ一貫教育の深化を図る研究を推進していきます。

### 子どもたちの安全・安心な環境づくりに向けて

子どもたちが、自分の居場所があり、安全に、しかも安心して学ぶことができる教育環境づくりを目指します。

## 5 産山村「夢創造」教育指導方針

### 教育指導方針の基本理念

産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造  
～0歳から生涯にわたる魅力ある教育を目指して～

### 教育目標

古い歴史と純朴な村民性、美しい自然環境と豊かな資源に恵まれた本村は、近年の経済社会情勢の変化に対応した社会基盤の整備や産業の開発を再構築し、今後一層の村勢発展に向け諸方策を推進している状況にある。

かかる情勢に鑑み、本村教育委員会は、教育基本法を始めとする諸法令等、及び本村第6次産山村総合振興計画「うぶやま未来計画」（令和2年策定）の趣旨に沿うとともに村民の理解と協力のもとに、豊かな人間性と創造力、確かな実践力を備えた村民の育成を目指す。その際、本村の実態に応じた特色ある教育を重視し、地域における最適の教育を推進する。

このため、次の目標を定め、その具体化に努める。

- 1 豊かな人間性の育成
- 2 主体性と創造的な能力の育成
- 3 健康でたくましい心身の育成
- 4 郷土愛と国際社会への対応能力の育成
- 5 生涯学習の推進と社会に貢献する精神の育成
- 6 産山村教育委員会取組の方向に即した特色ある教育の推進

### 重点目標

- 1 子どもたちに「生きる力」をつける。
- 2 義務教育学校の特性を生かし、教育効果を上げる。
- 3 郷土を知り、郷土を愛する人材を育てる。
- 4 保育園・学園、子ども、家庭、地域、行政が連携して教育の充実を図る。
- 5 生涯にわたり、学習への意欲を高める。

# 令和3年度 産山村「夢創造」教育指導方針

村の願い

**【教育理念】**  
**産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造**  
 ～0歳から生涯にわたる魅力ある教育を目指して～

保護者の願い

◇豊かな心、確かな学力、たくましい体の育成 ◇保育園・学園、子ども、家庭、地域、行政の連携

## 「夢」実現への基礎づくり

### 【重点目標】

- 1 子どもたちに「生きる力」をつける。
- 2 義務教育学校の特性を生かし、教育効果を上げる。
- 3 郷土を知り、郷土を愛する人材を育てる。
- 4 保育園・学園、子ども、家庭、地域、行政が連携して教育の充実を図る。
- 5 生涯にわたり、学習への意欲を高める。

ヒゴタイ交流を核とした英語教育の充実

ICT教育の推進

## 学びの連続性

「じっくり・しっかり・のびのび」

特色ある教育課程 ヒゴタイイングリッシュ  
うぶやま学・チャレンジ学習

コミュニティ・スクール 地域との連携

## 一貫教育

小1プロブレムの解消

中1ギャップの解消

### 【うぶやま保育園】

★夢への芽生え期【乳幼児期】0歳～5歳★

### 【産山学園】

★1stステージ【夢への助走期】

1～4年生

★2ndステージ【夢への疾走期】

5～7年生

★3rdステージ【夢への跳躍期】

8・9年生

## 1 幼児教育を含めた「生きる力」を育む教育の推進

### 「豊かな心」の育成

- 社会の一員として主体的、創造的に生きていくための基礎づくりの推進  
・「特別の教科 道徳」の指導法の工夫改善  
・いじめや不登校の未然防止の組織的取組  
・心の居場所としての園、学校づくり
- 総合的、計画的な人権教育の推進  
・校長のリーダーシップによる推進体制の機能強化
- 「わくわくキッズデー」の充実
- ヒゴタイ交流事業の充実

### 「確かな学力」の育成

- 義務教育学校の特性を生かした教育課程の編成
- 創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する教育の推進  
・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり  
・各種学力調査の分析と授業改善  
・ICTを活用した産山型学習の推進  
・各種検定への積極的受験と合格率の向上
- 9年間を見通した特別支援教育の推進

### 「たくましい体」の育成

- 自ら運動に親しみ、体力を高め、健康で安全な生活ができる資質や能力の育成  
・新型コロナウイルス感染防止の徹底  
・系統性ある教科体育及び園の体育的プログラムの充実・実践  
・熊本地震等に学ぶ防災教育の実践  
・園・学校保健委員会、食育推進委員会による計画と実践
- 危機管理マニュアルの点検と徹底
- 義務教育学校における部活動のあり方の検討

## 2 組織マネジメントの構築と教職員の指導力向上 ～ステージ制の充実～

- OJTによる人材育成
- 園評価、学校評価の検証と反映
- 保育士、教職員の積極的交流
- 働き方改革の具体的推進
- 村教育研究会の活性化 ※大学との連携
- 全職員の研究授業の実施
- 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導、支援の充実

## 3 信頼される園・学校づくり

- 不祥事根絶に向けた教職員の意識改革
- 園、学校公開及び積極的情報提供
- 学校運営協議会の意思の反映
- 地域学校協働本部の積極的な活用
- 「家庭学習の手引き」の改訂と活用

## コミュニティ・スクール

### 地域学校協働本部

### 学校応援隊

## 4 地域と連携した居場所づくり

- 放課後子ども教室、放課後児童クラブ、読書活動等の推進・充実
- 民間等と連携した「うぶやま夢塾」の推進・充実
- 子どもヘルパー活動の活動内容の充実と継続的取組
- スポーツクラブと連携した運動機会の提供

広げ隊

(交流コミュニティ)

学び隊

(学習支援コミュニティ)

伝え隊

(文化・安全コミュニティ)

暮らし隊

(体験コミュニティ)

## 6 評価指標 ～うぶやま未来計画 第2部 総合KPI（重要業績評価指標）より～

目標 ③	子どもを産みやすい、育てやすい仕組みをつくる。
------	-------------------------

### 戦略

04	手厚い教育をさらに進める村
	施策 ① 0歳～15歳までの一貫教育を推進するために 施策 ② 世界で活躍する人材を育てるために

2007（平成19）年度に村内の2つの小学校（産山北部小学校、山鹿小）が統合したことをきっかけに教育内容のさらなる充実を目的として小中一貫教育を導入した。

2009（平成21）年度に文科省より教育課程特例校の承認を受け、産山村独自の特別教科として「ヒゴタイイングリッシュ」「うぶやま学」「チャレンジ学習」を設置した。

2016（平成28）年度には、9年制とする「義務教育学校」制度が新設されたことを機に、産山小学校、中学校は2018（平成30）年度に一貫教育をさらに発展させるため、「We have a dream」の校訓のもと義務教育学校「産山学園」をスタートさせた。

産山学園の独自教科である3つの教科は、地域とのかかわりを通じて郷土愛を深め、コミュニケーション力の向上、相互理解を推進する。それらの基礎力の上に、文化や言語の異なるタイの子どもたちとの交流を図ることで、異文化への理解を深め、国際感覚を身につけることができる。小さな村にいらながらも子どもたちは世界に開かれた教育を受けることができるのが産山村の教育の特色である。

今後は、村立保育園の認定子ども園化を目指し、0歳から15歳までの途切れのない保小中一貫教育を進める。教育現場には、地域の人々とのかかわりを通じて多種多様な体験と経験を積み、人間力を高める教育と、夢に向かって実現する力を育む教育に取り組む。時代の変化に適応し積極的に利用するため、ICT技術を活用し、最先端の教育環境の充実と資質の向上に取り組む。

### 総合KPI（重要業績評価指標）

KPI	基準値（2019）	目標値（2024）
全国学力調査において「はっきりとした将来の夢や目標がある」と答える9年生の生徒の割合	45 %	60 %

施策①	0歳～15歳までの一貫教育を推進するために
主要事業	地域と学校が相互に連携・協働する「地域学校協働本部事業」の推進 生きる力の基礎を育む認定こども園化による0歳～15歳までの一貫教育の確立 地域コミュニティの醸成を基にした山村留学の実現に向けた検討
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子ども・子育て支援拠点事業</li> <li>・学校・家庭・地域の連携推進事業（地域学校協働本部事業）</li> <li>・学校・家庭・地域の連携推進事業（地域未来塾による学習支援事業）</li> <li>・学校・家庭・地域の連携推進事業（放課後子ども教室）</li> <li>・高校生がんばれ助成金事業</li> <li>・学校運営協議会（コミュニティースクール）</li> <li>・土曜日の教育活動推進事業（土曜授業）</li> <li>・各種検定助成事業</li> <li>・産山村教育研究会事業</li> <li>・情報教育推進事業</li> <li>・海山交流推進事業</li> <li>・スクールバス運行事業</li> <li>・学力向上の推進</li> <li>・教材の充実</li> <li>・学校読書活動の推進</li> <li>・給食調理業務の推進</li> <li>・就学前教育の充実</li> <li>・保育支援事業（英会話・ダンス）</li> </ul>

現在9年制の義務教育学校として運営する産山学園は、子どもが抱く夢の実現に向けた教育を推進するため、うぶやま保育園の認定こども園化を目指し、0歳から15歳まで連続性を持った保小中一貫教育を確立し、子どもの学力や生活面における課題等の情報を共有することで、次の4つを実現する。

1. 子どもたちに確かな学力をつける。
2. 郷土を知り、郷土を愛する子どもたちを育てる。
3. 保育園・小学校・中学校の段差を低くして教育効果を上げる。
4. 地域と保育園・学校が協力して、学校教育の充実を図る。

子どもたちの学びを取り巻く環境も刻々と変化しており、人口減少や AI 時代の到来に適応するためには、従前の教育だけでは対応できない。新しい時代を生きぬくために必要な資質・能力の育成、適応力の向上を進め、一人一人が社会の中で自己実現する力の育成が求められている。

現在整備している児童・生徒数分のタブレットや各教室の電子黒板などの ICT 機器をさらに効果的に活用して学習指導の充実を図るとともに、児童・生徒の情報活用能力を高め、情報化社会の中で新しい技術を活用しながら、学力を高め、視野を広げる取組みを行う。

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と、地域学校協働本部事業等を連携させ、「学校応援隊」が豊かな体験学習などの教育活動に関わることで、地域と学校が一体となった教育を推進する。また、児童・生徒に確かな学力をつけるために、村内の教職員 OB や地域住民、大学等と連携し、学校の授業以外でも公的な学習支援である「うぶやま夢塾」を実施する。

KPI	基準値（2019）	目標値（2024）
学校支援活動に参加する地域人材の延べ人数	800 人	900 人

#### 関連 SDGs



施策②	世界で活躍する人材を育てるために
主要事業	ヒゴタイ交流を背景とする英語教育の充実
具体的事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒゴタイ交流事業 ・JET 事業</li> <li>・ICT を活用したタイとのオンライン交流事業</li> </ul>

産山村では、タイ王国国立カセサート大学附属中学校との国際交流（通称ヒゴタイ交流）を行っている。1988（昭和63）年度からスタートしたこの交流事業を背景に、産山学園独自の英語教育カリキュラム「ヒゴタイイングリッシュ」が設けられた。

ヒゴタイ交流事業では毎年4名の生徒が参加し、お互いに長期休業（産山村：夏休み、タイ：10月）を利用してそれぞれの家庭に3週間ホームステイし、授業、各種行事、小旅行等に参加する。交流事業を通じて、互いの国の文化や伝統を理解し、言葉の壁を乗り越え、心と心を通わせることによって、国際社会の一員としての自覚を深めるとともに外国語学習への意欲が高まっている。今後も継続して交流事業を行う。

30年以上行われてきたヒゴタイ交流を背景に、産山学園の独自カリキュラムである「ヒゴタイイングリッシュ」（英会話科・英語科）を継続する。またJET事業を活用し、海外の外国語教師を受け入れ、実践的な英語教育と国際交流を推進し、子どもたちの国際感覚を培う。

英語力のレベルアップや基礎力を測るため、「チャレンジ学習」の中で英語検定に挑戦している。受検にあたっては子どもたちが自分で目標設定を行うなど、主体的な学習を支援するとともに受検費用を助成することにより家庭の金銭的負担を軽減させる。

KPI	基準値（2019）	目標値（2024）
全国学力調査において外国や外国の人に強い関心を持つ生徒の割合	30 %	50 %
9年生における学園卒業までに英語検定3級以上を取得した生徒の割合	60 %	70 %

#### 関連 SDGs



